

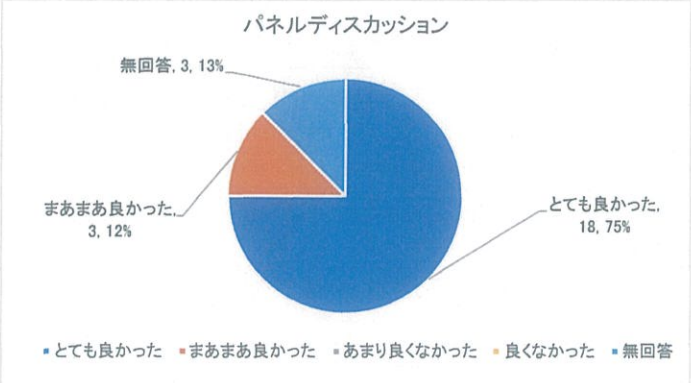
みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	教育の未来を支えるネットワーク	
代表者名	松坂 宏造	
連絡先	TEL : 090 - 4637 - 7591 FAX : 022 - 378 - 1293	E-mail : reiteru999@gmail.com

1. 助成事業報告

助成を受けた事業名	第9回教育の未来を支えるネットワークフォーラム
事業の目的	宮城県や仙台市の教育のさらなる充実・発展を目指し、社会総がかりで学校教育や社会教育を支援する仕組みを構築することによって、広く社会の中で、教育への理解を含め、子どもたちの豊かな未来の創造に寄与する。
事業の具体的内容	(1) 事業名 「第9回 教育の未来を支えるネットワークフォーラム」 ～オトナのつながりと子どもの育ちと～ (2) 会場・期日 ① 日時 令和6年11月30日(土) ② 会場 仙台市宮城野区文化センター パトナシアター (3) 内容 ① 開会行事 ・開会の挨拶 松坂宏造代表 ・来賓祝辞 宮城県教育委員会教育長 仙台市教育委員会教育長 ② 基調講演 「オトナのつながりと子どもの育ちと」 ～立場を超えて～ 一緒に子どもの未来を！ 講師：塩釜市教育委員会学校教育課長 松崎和佳子氏 ③ 小劇 「オトナのつながりと子どもの育ちと」 第一話 トランスレーター 第二話 F2F (フェイス・トゥ・フェイス) ④ パネルディスカッション 「オトナのつながりと子どもの育ちと」 パネリスト 石垣政裕：お父さんたちのネットワーク代表 岡本浩行：おきの学園学校支援地域本部 SV

	久保木潤子：西山小学校学校運営協議会会長 斎藤純子：榴岡児童館館長 コメンテーター 松崎和佳子：塩釜市教育委員会学校教育課長 コーディネーター 野澤令照：教育の未来を支えるネットワーク事務局 ⑤ 閉会行事 ・閉会の挨拶 山口哲男副代表																		
活動の開始から完了 までの流れ	1 フォーラムの企画 ・毎月開催する例会において、現在の教育に関する課題について話し合った。 ・話し合いの中から、子どもたちを健やかに育むためには大人同士のつながりが重要ではないかという問題意識が出され、今年のテーマはそこに絞ることになった。 ・テーマについて議論し、全体テーマを「オトナのつながりと子どもの育ちと」にすることに決まった。 2 フォーラムの内容 ・テーマにふさわしい講師の基調講演、例年実施している小劇、そしてパネルディスカッションの構成に決まった。 ・講師には、宮城県の子育て支援の取組を県内に広めた実績を持っている松崎氏にお願いすることとした。 ・小劇では、親同士で問題が起きた時に自分では動かずに、教師に依存する現状を伝えるために「トランスレーター」という劇に仕上げた。さらに、SNS への依存に警告を鳴らす意味で「フェース・トゥ・フェイス」という劇にした。 ・パネルディスカッションでは、基調講演や小劇の内容をもとに、パネラーで話し合い、松崎氏にもコメンテーターとして加わってもらうことにした。 3 フォーラムの準備 ・ネットワークのメンバーが中心になり、小劇の練習を重ねた。脚本、演出を石垣氏、劇の練習には仙台小劇場の方々にも協力していただいた。 ・フォーラム前日に会場の準備。 4 フォーラム当日 ・午前中に準備と小劇の練習を行って本番を迎えた。																		
活動の成果	○ 参加者のアンケートでは、「子供の育ちが自分の育ちになっていることに気づいた」「人と人とのつながりの大切さを子供たちにも伝えていきたい」などの感想が寄せられた。新たな発見があったり、良い学びを得られたりしたことが伺える。 基調講演「オトナのつながりと子どもの育ちと」 <table><thead><tr><th>評価</th><th>人数</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>とても良かった</td><td>16</td><td>67%</td></tr><tr><td>まあまあ良かった</td><td>5</td><td>21%</td></tr><tr><td>あまり良くなかった</td><td>1</td><td>4%</td></tr><tr><td>無回答</td><td>2</td><td>8%</td></tr><tr><td>良くなかった</td><td>0</td><td>0%</td></tr></tbody></table> ■とても良かった ■まあまあ良かった ■あまり良くなかった ■良くなかった ■無回答	評価	人数	割合	とても良かった	16	67%	まあまあ良かった	5	21%	あまり良くなかった	1	4%	無回答	2	8%	良くなかった	0	0%
評価	人数	割合																	
とても良かった	16	67%																	
まあまあ良かった	5	21%																	
あまり良くなかった	1	4%																	
無回答	2	8%																	
良くなかった	0	0%																	

活動の教訓	パネルディスカッション  「2つの劇で話題を焦点化してディスカッションを進めていたのがとても良かった」「顔の見える関係作りの大切さを改めて共有することができた」など、フォーラムに対する満足度が高かったことが分かる感想が多く、目的を十分達成することができたと考えます。 ○ 今後に向けて、若い世代の人たちにもっと多く参加してもらうためには、広報のあり方に工夫が必要だという声があった。また、内容が素晴らしいだけに、当日参加できなかった人たちのために、大きなフォーラムでなくても良いので、他の機会も設定して欲しいという声があった。各地域の諸団体と連携しながら活動の場を広げることが必要だと感じた。
今後の展望など	○ 令和7年度には、フォーラムも10回目の節目を迎える。これまで積み上げてきた成果を総括し、新たな一歩を踏み出す機会になるようなフォーラムを開催したいと考えている。 社会総がかりで教育を支えることを通して、子どもたちの豊かな未来を創造するという教育の未来を支えるネットワークの原点に立ち返り、さらに活動を広げたい。 ○ 情熱を持って教育に取り組む多くの教員を守るために、理不尽なバッシングを繰り返す保護者や地域に対して直言する役割を果たしていきたい。 ○ 社会総がかりでの教育を実現するためには、広く社会への啓発を行うことが重要である。今後も、年1回のフォーラムを継続していきたいと考えている。 ○ 新たな取組として、学校や地域へ出向いて、教育に関するミニ研修会を開くなど、教育を支える気運を醸成する活動を展開していきたい。

2. 助成金使徒報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額(千円)	備考
福祉活動助成金	100	・ 自己資金は会費及び自己負担金
他機関助成金	0	
自己資金	104	
その他(繰越金)	73	
合計	277	

■ 支出の部

項目（費用）	内訳	予算額(千円)	実支出額（円）
諸謝金	講師謝金、企画・報告運営謝金 (20,000 円×1 人、50,000 円×1 人)	8 0 (4 0)	7 0,0 0 0 (4 0,0 0 0)
印刷製本費	報告書印刷、チラシ印刷等	6 0 (2 0)	7 3,4 1 9 (2 0,0 0 0)
通信運搬費	報告書送付、郵送料	1 5 (1 0)	4,1 4 0
消耗品費	事務用品、用紙、封筒等	2 4	4,0 2 3
会議費	弁当代、茶菓子代等	3 0	2 5,4 7 8
借損料	会場使用料	3 5 (3 0)	6 5,4 0 0 (4 0,0 0 0)
繰越金			3 4,5 4 0
合計		2 4 4 (1 0 0)	2 7 7,0 0 0 (1 0 0,0 0 0)

3 送付必要書類

- 1 福祉活動助成金 助成活動報告書
プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールで送付
- 2 領収書のコピー（郵送）
- 3 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）
※写真は郵送とメールで送付

報告書

第9回

教育の

未来を支えるネットワーク
フォーラム

オトナのつながいと
子どもの育ちと

令和6年11月30日(土)13:00~16:00
宮城野区文化センター パトナシアター



主催 教育の未来を支えるネットワーク

共催 宮城県教育委員会/仙台市教育委員会

後援 宮城県PTA連合会/宮城県高等学校PTA連合会/宮城県高等学校定時制通信制教育振興会/仙台市PTA協議会/
仙台市立高等学校定時制教育振興会/河北新報社/朝日新聞仙台総局/読売新聞東北総局/毎日新聞仙台支局/
NHK仙台放送局/tbc東北放送/仙台放送/ミヤギテレビ/khb東日本放送 ※順不同

基調講演

「オトナのつながりと子どもの育ちと」

～立場を超えて～ 一緒に子どもの未来を！

塩竈市教育委員会学校教育課長 松崎 和佳子 氏



①「子ども」という存在
甥っ子に赤ちゃんが生まれました
～それぞれの立場でできること～



②「子ども」を真ん中に周りの関わり
～それぞれの立場でできること～

③親でも先生でもない「ななめの関係」
～それぞれの立場でできること～

④「各家庭で」
～それぞれの立場～

⑤「行政の現場から」
～それぞれの立場でできること～
最近の若者はすごい！
家庭教育支援のアイドル中山七海！

⑥「学校現場で」
～それぞれの立場でできること～



⑦「コロナ禍」でも...！
「コロナ禍」だからこそ...！
～それぞれの立場でできること～

⑧教え子から学んだこと
「うるせー！このくそババア！」
～からの～「先生の目をちゃんと
見てありがとうを言いなさい」

⑨教え子から学んだこと
「せんせー！オレ、あれから1回も人に死
ねって言ってない」「当たり前だー！」～子
どもは成長する～

⑩「この世で一番過酷な職業は？」

⑪「ごめんなさい」と「ありがとう」
～これが言えたら...生涯、愛されながら
生きていける～

①今日、11月30日は絵本の日です。私にとっても特別な日、甥っ子に赤ちゃんが生まれた日でもあります。皆さんは、最近どんな良いことがありましたか？ 今日この会場に集まること自体が化学反応を起こして、何か新しいことが始まりそうな気がします。

塩竈市教育委員会生涯学習課の若手、3年目の中山七海さんにおいていただいています。彼女が抱いているのは、赤ちゃんと同じ重さのお米です。

中山「赤ちゃんと同じ重さと思って抱いてみると、実感がわいて、親の気持ちになります。」

松崎「仕事をして、大変だと思うこと、大事だと思うことはありませんか？」

中山「地域には支援したい方がたくさんいて、その方々の協力の力が大きいことを実感します。」

宮城県教育庁生涯学習課で作成した、親の学びのプログラム「親のみちるべ」をご紹介します。親同士がつながればと思い、学校や幼稚園にご協力いただいて作成しました。本当に届けたい人に届くよう、配布の機会の工夫をしています。現在第4弾までできています。

中山「第4弾は今日的課題解決に向けたプログラムになっていて、親子が触れ合える絵本の読み聞かせやメディアの使い方などの内容になっています。」

中山さんによる読み聞かせ。

②私の実家はお肉屋さんで、忙しかったんです。10歳離れた妹を、近所の方々が面倒をみてくれました。子どもは、いろんな方々と触れ合い、様々な情報が入ることで、たくましく育ちます。子どもを真ん中に、大人も地域も育つような気がします。

③私は『雀踊り』をやっています。小さな子どもから70代の方まで、一緒に練習をしています。中には、不登校の子どもたちもいて、学校には行けないけれどここには来れるという子どももいます。演劇をやっているという子どもたちもいて、学校での姿とは違った、生き生きと輝いている様子が驚かされることもあります。子どもたちの居場所をつくる大事さを思います。

④教育の出発点は、家庭にあります。友人から聞いた子育ての体験談です。2人お父さんがいて、一人目の時は、TVを置かず、読み聞かせをたくさんしたそうです。二人目の時は、TVがあつて、TVに子守をさせてしまったと。2人のお父さんは、読む力、読解力に違いが出てしまったと言うのです。本に幼いころから触れさせることの大切さ、本で世界を広げる可能性を感じました。

⑤先ほど中山さんをご紹介しましたが、最近の若者はすごいと実感しています。逆に若者から刺激を受けています。行政の役割は、こういう方がいる、こんなことを思っている方がいる、それが必要な人や場に紹介する、つなげて生かすことが、担当としてできることだと思います。縁の下の力持ちで見えない力ですが、若い方が頑張っている力は大きくて、その力で生かされている人がいると思います。ありがとうございます。ぜひ、頑張ってください。

⑥かつて、主人が勤めていた学校で、ある男の子が書いた作文があります。ずっと忘れられなくて思っています。中学校1年生の子が書いた作文です。

作文を読む～「僕の願い」ずっと欲しかった弟が家族になり、僕は可愛くてしょうがない。弟は自閉症だが、障がいがあるとかではなく、ただ可愛い。弟と接するにはちょっとしたコツと工夫があるが、家族にとっては普通のことだ。母が自閉症と伝えるかどうかは、人によって使い分けている。難しいことではなく、みんなが目の前の人をそのまま尊重することだ。母が誰にでも「この子自閉症なんです」と言える世の中になって欲しい。（抜粋）

私は、子どもも先生方も、この子のように思う学校をつくりたい、そう思っています。

⑦コロナ禍の2年間、校長として中学校にいました。窮屈で、人との接触を断たれた中で、コロナがなければできた...その思いをどうしたらよいか、毎日考えていました。子どもたちにも先生方にも、やりたいことがあったら言ってと伝えたところ、たくさんのアイデアが出てきました。文化祭を、外で、保護者が準備してくれたステージ付きトラック3台でフェス式でやったり、ブルーインパルスが飛んでくれたりしました。子どもの考えで、屋の校内放送を「和佳子の部屋」にし、黙食だったのに本当に楽しくて、心の持ちようだと教えられました。

⑧教育は時間がかかるけれど、というエピソードを2つ紹介します。

中学校は、ある時代、毎日が戦いの日々だったことがあります。シンナー、たばこ、バイク...ほとほと疲れ果てていました。ある時、子どもの家庭環境の大変さを言葉にしたら、先生も大変だなと2人で泣いたことがあり、その時から関係が180度変わりました。その子が親になった今でも関係が続いていて、当時私が言った言葉を、我が子に言っている姿を見て涙が出ました。

⑨当時、はやり言葉のように「死ね」と簡単に言っていたことに危機感を覚え、聞こえたら学級構わず注意に入り、言うてはいけない雰囲気づくりをしないと、迷いながらですがやっていました。20歳の集まりでそのことを言ってくれた子がいて、5年後まで覚えていてくれてありがとうと涙が出る思いでした。

30歳、40歳となった教え子たちが、先生の言ったことが今になって意味が分かる、とってくれることもあり、時間がかかったけれど、伝わっていることを実感します。それ以上に親の気持ちは伝わっているはずなので、言うことをあきらめず続けて欲しいと思います。

⑩ご自身で検索してみてください。

⑪「ごめんなさい」と「ありがとう」に勝る言葉はありません。子育ては10人いれば十色、大らかであって欲しいと思います。

コロナ禍で集会ができませんでした。オンラインでの校長の話で、読み聞かせをしました。「毎日がプレゼント」という本です。英語のプレゼントには「今」という意味があります。毎日、新しい今日をプレゼントされているのかもしれない...子どもたち、先生方の心に残ったようです。

私はいろいろな立場にいたので、今日は、その経験をお話して、会場の様々な立場の方と共に感じてつながろう、学び合おうと思いました。ありがとうございました。

第一話 トランスレーター

語学が堪能な田辺先生。いろいろな人が相談にくる人気。クラスで生徒間のちょっとしたトラブルがあった。田辺先生のところに当事者(の親)が相談にやってくる。

田辺先生、前任校でトランスレーターと呼ばれていたらしいですよ

谢谢

何かありましたら、学校にお越しください

先生、橘さん何とかしてください

この問題、どう通訳するのかしら

NPO法人 劇団仙台小劇場

作・演出 石垣政裕
舞台監督・照明 小松慶子
音楽・音響 高橋直人
衣装・小道具 きよみ

配役
田辺先生 高橋直人
千葉教頭先生 岡本浩行
友成 佐藤亜矢子
保護者 佐藤大地
吉田 熊谷 遙
橘 田中咲葵
AIの回答者 きよみ

お子さんに伝えたらどうですか

先生からよろしくお願いします

野澤 小劇第一話「トランスレーター」をご覧になられていかがだったでしょう。

久保木 スーパーバイザー (SV)をしています。夕方以降の職員室で、同じような場面を見ます。今は、18時以降、外からの電話は受けなくなっていますが、先生から保護者に交互に電話をかけている様子を見て、なぜ保護者同士で話し合えないのだろうと思うことがあります。

齋藤 児童館の館長をしています。児童館でも同じようなことがあります。双方の意見を聞き、気を遣いながら対応しています。先生方と共有しながらの対応が大事だと思います。

石垣 脚本を書いています。皆さんからたくさんのテーマをいただきます。その中から、大人がどう変わり、どうつながることで、子どもたちの成長につながるのか、大人の世界に焦点を当て、先生方と地域のつながりを書いてみました。先生方の多忙化の問題など15分の中にどう詰め込むかが難しく、伝わったかどうか分かりませんが、とっかかりとして話題にしたいだけだと思います。

野澤 今日のパネリストは、皆、ネットワークのメンバーです。1か月に1度の例会をもち、話し合いの中から今日のテーマが決まったという経緯があります。松崎さんのご講演とも関係があったかもしれません。いかがでしたか。

松崎 劇とは思えない、昨日も今日も学校で起きていることではないかと思いました。勤務時間外であっても保護者の方の時間に合わせ、中学校では部活が終わってから連絡を取るような実態をわかってくださってありがたいと思います。今のこの時間ですべてが分かるのではなく、皆さんそれぞれが地域にお持ち帰りいただいて、切り口は様々だと思いますが、考えるきっかけとしていただければ、今日のこの場は最高の場になると思います。

野澤 松崎先生のご講演についてはどうでしたか。
久保木 子どもに対して言い続けると、後で花開く時が来るというお話は、自分の子育て、教員経験の中にもあって、そうだよ、と感同しつ泣きながら聞いていました。

齋藤 久保木さんが泣きながら聞いている後姿を見ながら、私も

今日は、たくさん学ばせていただきました。松崎先生が、様々な立場のご経験の中で、立場に関わらず、相手に本気で向き合う姿勢が感じられて人間性だと思いました。自分は塩竈市に関わったことがあり、生涯学習課の中に家庭支援があることを見て、融合の大切さを感じていました。

会場から (塩竈市教育委員会生涯学習課中川氏)

行政の立場でも地域の中の伝書鳩のようなこともあり、同じだと感じながら見させていただきました。自分としても今後の課題だと思っています。

石垣 学校・保護者・地域・行政…つながることが多いと思います。そこを考えると、自分なりにどう次の人に伝えていくのか。方言でもなんでもいいので、その地域の人に伝わる言葉で伝えることが大事だと思っています。

27年前におやじの会を作りました。まず、地域の中で自分たちの言葉で話をして、自分たちで考えてみる。学校へもっていくのはその後だと思います。おやじの会は一時ブームのようになりましたが、今でも状況は同じだと思います。

岡本 SV、PTA会長、区長さんなど、それぞれの団体の中心になっている方々は、翻訳をしているのだろうと感じています。地元でたくさんの団体が参加して実施し、盛り上がったハロウィンパーティの振り返りをしました。参加した団体がそれぞれの思いを語り、持ち帰り、咀嚼してまた集まる。その繰り返しができる組織、地域であれば、そしてその真ん中に子どもたちを乗せていけば、つながりはバッチリなのだろうと思います。

齋藤 児童館の館長として、地域に根ざした児童館づくりを目指しています。学校に入学する前に、どうやって地域につながられるかを考えています。榴岡では、学校・学校支援地域本部・PTA・児童館の4者で月1回の定例会「つつじがおかほっとぽっと倶楽部」を開いています。何が生まれてきたかと言うと、思いを共有できる事で、大人のつながりが広がりました。子どもの輝き方もちょっと違って来たように思います。

野澤 親同士のつながり、地域・組織とつながる手段としてSNSは主流になっていくと思われます。その中で、留意しなければならぬこともあるのではないかと思います。

第二話 F2F(フェイス・トゥ・フェイス)

千葉先生が教頭をしている南川中学校の生物科学部が新種のコケを発見し、新聞に大きく取り上げられた。千葉先生、習ったばかりのAIを駆使して、ふさわしい名前をつけようと考えたが...



ウチの学校のことSNSに載ってますよ



校長と関係機関に連絡し、すぐ削除します



生徒と相談して、よい名前を考えてください

AIに聞いてみよう、情報を入力...と



情報が必要です、生年月日は？ 暗証番号は？



石垣 顔を合わせることから生まれる信頼を大切にしたいと思っています。ネット空間でも人を知ることはできますが、顔を合わせることの楽しさを、子どもたちにどう伝えていったらよいか考えていただきたくて劇を作りました。

久保木 コロナ禍中は、集まることができなかつた、情報共有はラインで、それが今も続いています。PTAの役員決めの最中ですが、顔を知らなくて、推薦に苦労しています。顔を合わせることの楽しさを若い保護者に知って欲しいと思い、つなぎ直しをしていきたいと考えています。

齋藤 コロナの制限がとれたこの1年は、手ごたえを感じた1年でした。子どもだけでなく大人も、一緒に過ごす場を求めていると感じました。大人が楽しむ姿で、子どもたちは安心します。同じ方向を向いていけるチャンスだと感じています。

岡本 中学校ではSNSに関わる事件は多いです。学校で顔を合わせているその裏でSNSへの書き込みが問題を起こしています。実は、保護者間でも同じことが起きています。そんな中で、先ほどお話したハロウィン、中学校区の沖野小と沖野東小合同で行いました。大人のつながりが広がり、それによって子どもが影響を受ける姿を目の当たりにして、意味を感じ、来年も継続してやりたいと思いました。



Okamoto

松崎 会場の、中・高校生の方のお考えを聞かせてください。

会場から (高校生)

うるさいなとか思うのですが、大人ってそういう気持ちで注意してくれているんだと知って、よかったです。

野澤 若い方々は、生まれた時からSNSがあって使いこなしていますね。そういう世代がつながるということはどう感じているのか聞きたいと思いました。

久保木 小学校で地域が開いているイベントに、卒業した中学生がスタッフとして参加したり、6年生が来年も来る約束をしたり、子どもが小学校を卒業した親も来てくれたりしています。地域の活動に参加している子どももいます。これを鮭の回帰と言っていますが、私たちの活動は種まきだと思います。大人になって地域に戻ってきてくれる、十数年この活動をやって実感しています。

石垣 おやじの会を立ち上げた時の目標は、20年後、30年後の同じようなおやじたちを育てたいということでした。おやじたちが活動をしている傍らで子どもたちが遊んでいる。親の姿を見ているわけですね。

パネリスト
石垣政裕
岡本浩行
久保木潤子
齋藤純子

お父さんたちのネットワーク代表世話人
おきの学園学校支援地域本部スーパーバイザー
西山小学校学校運営協議会会長
榴岡児童館館長・教育の未来を支えるNW副代表

コメンテーター
松崎和佳子氏 塩竈市教育委員会学校教育課長

コーディネーター
野澤令照 教育の未来を支えるNW事務局長

会場から (寺岡おやじの会代表/寺岡中学校PTA会長 鈴木氏)



若いお父さん方の足が遠のいている感じがします。「学コミ」のような地域の他のネットワークを巻き込んで、活動を切らず種まきを続けていきたいと思っています。

会場から (長町南小学校スーパーバイザー 奥平氏)



活動する人が減っている、子どもたちが多忙になっていることが課題です。地域で活動する団体が横のつながりを持てるように活動していきたいと思っています。

会場から (榴岡小学校支援地域本部 榎野氏)



榴岡は当たり前のように団体がつながっている地域で、子どもたちだけでなく、私たちが幸せだと感じています。コロナ禍からの復活の今年、榴岡の底力が見えました。

会場から (野村小学校PTA会長 山上氏)



野村小は小さな学校で、大人も子どもも一緒になって遊ぶような学校です。子どもたちが、この地域に住んでいたいと思うような楽しいイベントを企画しています。

野澤 齋藤

最後に、提言や感想を一言ずつお願いします。就学前から学校につながる親同士の顔が見える地域を作りたい、次代を創る若い世代のチャレンジを支える縁の下の力持ちになっていきたいと思っています。

久保木

保護者、地域、学校を同じステージにあげていく活動を続け、つながる楽しさを伝えていきたいと思っています。

岡本

学校・保護者・地域が腹を割って話す機会はすごく重要で、子どもたちに良いものを提供していくために、大人たちが話し合うことの大切さをつくづく感じました。

石垣

劇団として子どもも一人の俳優と捉え、同じ時代、同じ町を作っている一人と認めて接しています。今日私は一幕の物語を作りました。皆さん、地域に帰って2幕目の物語を、ぜひ作って欲しいと思います。

松崎

皆さんの活動に感心するばかりですが、ここでつながったことで新しいものが生まれるかもしれません。地域にはそれぞれの良さがあり、皆さんの地域への愛情を感じました。信じ続けることは、実はとても大変ですが、一緒に信じる方がいると力強いものです。子どもは認められると嬉しいので、同じ人として一緒に活動していけたらと思います。誰ともつながらない人をなくしたいと思っていて、組織としてはもちろんですが、組織を離れた個人でできる事も実践していきたいと思っています。この場でつながった方、それぞれの地域でのつながりの中で、私たち一人一人が何ができるか考える時に、今日のフォーラムが何らかのお役に立てたら幸いです。

教育の未来を支えるネットワーク

●趣旨

宮城県や仙台市の教育のさらなる充実・発展を目指し、社会総がかりで学校教育や社会教育を支援する仕組みを構築することによって、広く社会の中で、教育への理解を深め、子どもたちの豊かな未来の創造に寄与することを目的としています。

●主な活動

- ①協働に取り組もうとする地域および学校に対する情報の提供
- ②フォーラムまたは広報誌による事例の紹介
- ③学校およびPTA関係者、市民、NPO、企業等が交流する場の設定
- ④個別の教職員の悩み等に対するサポート活動
- ⑤その他

●会員の募集

趣旨にご賛同いただける正会員または賛助会員を、随時募集しております。

正会員	年会費 10,000円
賛助個人会員	一口 3,000円から
賛助企業・団体等会員	一口10,000円から

振込先銀行 支店名 七十七銀行 仙台東口支店

口座番号 普通 5004458

口座名義 教育の未来を支えるネットワーク 代表 松坂宏造

●役員/世話人

顧問	高橋 仁 (宮城県教育委員会 元教育長/仙台大学学長)
	荒井 崇 (仙台市教育委員会 元教育長)
	木村 民男 (東松島市教育委員会 元教育長・石巻専修大学教授)
	熊野 充利 (大崎市教育委員会 教育長)
	鈴木 洋 (大河原町教育委員会 教育長)
代表	松坂 宏造 (仙台市教育委員会 元教育委員長)
副代表	山口 哲男 (仙台自分づくり教育研究会 会長)
副代表	齋藤 純子 (NPO法人 せんだい杜の子ども劇場 専務理事)
事務局長	野澤 令照 (利府町文化交流センター「リフノス」センター長)
世話人	阿部 清人 佐藤 亜矢子 佐藤 憲子 石垣 政裕
	庄子 修 伊藤 長悦 高山 典子 岡本 浩行
	数本 芳行 福島 邦幸 久保木 潤子 堀越 清治
	小岩 孝子 佐藤 美知子 霜山 清 大友 重明
	菅野 茂 猪股 亮文 田辺 泰宏 今野 隆

●お問い合わせ先

利府町文化交流センター「リフノス」 野澤 令照

Tel 090-4637-7591

E-mail y.nozawa@rifunosu.jp